

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0191600014), 法人名 (有限会社 グループホーム・和), 事業所名 (グループホーム・あかり), 所在地 (松山郡江差町字田沢町492番地8), 自己評価作成日 (平成25年2月1日), 評価結果市町村受理日 (平成25年4月4日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長い人生の中で積み上げてきたその人らしい人格が束縛されることなく、安心と尊厳の中でその人らしいごく普通の暮らしができる支援をしています。
具体的
1. その人の心身的能力に応じた地域参加・・・町内会各行事(地域交流会・児童保育園交流・お祭りなど)
2. その人の生活背景からあたり前の暮らしの継続・・・回想法・五感刺激(自然にふれあう)・調理手伝いなど、自然とのふれあい
3. その人の残存機能維持、向上に伴う介護予防・・・その人のどの部分に働きかけどの部分を維持するか→おしゃべり・唄う・散歩・歩行訓練・足湯・温泉・山菜採り・あんまマッサージ指圧

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0191600014-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成25年2月26日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあかり」は江差町市街地から日本海沿いに北へ4キロほど離れた、海と山に囲まれ温泉が湧き出る小さな集落の中に位置し、同じ屋根の下でのグループホームなごみ、高齢者下宿、デイサービスの利用者と共に豊かな自然に抱かれながら暮らしている。運営者の中には長年にわたり看護師・保健婦として勤めた経験から、認知症であっても住み慣れた地域で「あたりまえの暮らし」「その人らしい暮らしの継続」を安心と尊厳を守られながら暮らすことの大切さを強く感じ、平成19年4月1日、ご自分のふる里であるこの地に個別ケアに重点を置いた「グループホームあかり」を開設。町役場の職員であった事務長は現在町内会長として地域のお世話役をしており、地域の情報を熟知し、ニーズを的確に捉えてすばやく対応している。運営者の意志は事務長、管理者、全職員に着実に受け継がれ、理想に向かって前進しているホームである。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念に基づき、その人らしい人生を最大限尊重されるよう具体化された介護を基本理念とする。	開設当初から独自の理念を作りその理念を柱として、利用者個々のその人らしい暮らしを支援するために、具体的なケア理念を作成し、管理者と職員は質の高いケアサービスに繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域が一丸となって行われている行事への参加(町内会三世代交流会・祭り)や保育園児との交流等実施している。	町内清掃活動や除雪、保育園児の訪問などが日常的に行われ、お祭りや町内会三世代交流などの行事にも積極的に参加して地域との関わりを密にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブとのなじみの関係作りや認知症研修会を実施していたが、24年度はボランティアの演芸会に招待している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回運営推進会議を開催。その中で利用者が安心して安全な生活が送れるよう、具体的に会議中に報告し意見を取り上げよりよい生活につなげている。	年6回開催している。そのうち2回は実際に利用者の生活ぶりを見ていただけの様、事業所の行事の時に実施し、様々な立場の方からの意見やアイデアを頂ける様に工夫をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連絡は常に相互に行き来しており、スタッフとのなじみの関係ができています。さらに偏りのないサービスの質の向上にむけ、最新の状態把握に努めている。	町の担当者とは相談事や研修会の情報交換など常に連絡を密に取り合い、職員とは馴染みの関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修に参加し全職員が把握している。ただし、危険とおもわれる場合家族の同意を得た上で拘束することがある。玄関に施錠はしているが、玄関側にカギを設置し、自分でカギを開錠して出入りしている利用者もいる。	管理者と全職員は身体拘束によるリスクを正しく理解しており、事業計画の中に年4回事例検討を含めた勉強会を開催している。安全確保のためにやむをえない場合は、かかりつけ医の意見や判断を家族に説明し同意を得て慎重に行う事もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議を利用し、事例を通して研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の権利や援助の必要性については知っている。また、実際利用している利用者もあり、書類や収支について関係機関と連携し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は十分な時間をかけ、家族の思いも聞き入れ利用料金や内容等を説明。また、体調異変、救急時対応等について説明する。退去についてはその後の方向性まで話合っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	都度利用者の要望(食べたいもの、してほしいこと等)を聞き取り職員間で話し合っている。家族へは、電話や面会・利用料支払い時に声をかけ、家族の思いを引き出したり、本人の思いを伝えたりしてなるべく早くかなえられるように努力している。	職員と家族はどんな些細な事でも包み隠さず話せる関係を構築しており、表出された課題は真摯に受け止め運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議ほか、昼休みなど日ごろから必要に応じて職員の意見や希望を聞き出す努力をしている。	職員は会議や休憩の時間など、意見や要望を表出する機会を多く確保し速やかに改善に取り組み反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別性を重視し、子育て中の職員や通院日への配慮も含め、働きやすい環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	戸外研修には平均的に参加できるようにしている。その報告もされ実践している。勤務しながらの資格取得に励むよう段階的に行われていることが、全職員の資質向上へとつながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターや檜山振興局主催の介護職員研修が行われ、研鑽と情報交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入居に至る不安解消のため、生活歴ほか家族関係や趣味嗜好品などを伺い、ある程度の不安は除かれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用希望の気持ちを大事にし、相談者のみでなく、取り巻く家族の意見も受け入れながら初期段階より信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談にあった内容を、ケアマネを中心に他の事業所と連携し必要なサービス利用へとつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	勤務者は利用者と同じ食事を同じ場所で共にとり、さりげない会話で関係を温めている。また、人生の先輩である利用者から学び得る事は沢山あり、持っている多くの力を引き出し発表したり実践できる場を作るよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のご家族が主体者として考え、日々の生活を共有し、ご協力を頂いている。ケアプランにも家族の役割を位置づけており、日々の様子を報告したり、ご協力いただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々ではあるが、電話・手紙や面会は自由。理美容も自由で、本人の行きつけのお店に行く方や、多くは近くの理美容院を利用(カット訪問もしてもらう)している。希望により買物も馴染みのスーパーに出かけている。	馴染みの理美容院を利用し続けたり、近くの理美容院の訪問カットを利用するなど自由である。電話や手紙での連絡や知人との面会を取り持ち、継続的な交流が出来る様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立者のないよう個々の趣味特技を引き出しながら関係作りに努めている。その状況は常に全スタッフが共有し関わりを持っている。又場合によっては席替えをしたり、常に気持ちを穏やかに保つよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も常に気になるところで、その時の状況にあわせて訪問したり、不意の出会いなどにおいて状況を把握する場合もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中でお茶をしながらこれまでの暮らしや過程を話し合いながら思いを引き出し、家族と共有している、また全スタッフも記録やミーティングで把握している。意思表示が困難な方には表情で察知したり留意している。	日々のさり気ない会話や関わりの中から思いを推し測ったり、引き出している。意思疎通の困難な方は家族と情報交換しながら検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりご本人の生活とその背景を知った上でのケアに努めている。また、友人や知人との関係作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状況に応じて、無理のない範囲で調理仕事や掃除・裁縫等の仕事を共に行っている。一人で読書をしたい方、毎日TVに拝みに行く方(本人にとっての神社)へのフォローもしている。その思いを大切にしよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に、日々のミーティング・事例検討・ケア会議などを通じて、本人の全体像の観察、情報とモニタリング、本人家族の意向を話し合っている。ケアマネが不在時でも職員間で連携がとれ家族とも連携がとれている。	本人の全体像を把握するために一部センター方式を利用し、全職員でアセスメントとモニタリングを繰り返し丁寧に、本人の意向や家族などのアイデアを取り入れた現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録により生活状況がわかるようにしている。ケアプランに添ったケアを番号で記録し家族がみてもわかりやすく記している。早急なケア変更時はミーティング・申し送りで連携している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて本人の受診を代替することもある。また、本人家族の状況で、行事を含めて必要時家族との絆が図られることがある。家族より畑の種や野菜が提供され、収穫を楽しむことがある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加したり、ホーム前で伝統行事を披露してもらうことあり。また、散歩で四季を感じながら足湯へ外出したり(車で行くこともある)移動図書館(貸し出し場所として町に依頼した)を利用し楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	医療機関については契約時に十分理解を得られている。受診時家族同伴の方もいるが、都合により職員も対応している。他科、他病院についても介護連絡を密に、家族とも連携がとれている。	本人や家族が希望する医師による医療を受けられるよう、契約時に十分説明し理解を得ている。受診や通院は家族と協力して行い、受診の付き添いを職員が代行する時は「代理人願い届け」をしっかりと交わしている。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に連携をとりながら個々の支援にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホームより情報はもとより家族、看護職、主治医との連携を密としている。入居中の生活延長と考え、見舞い・生活面のお世話(買物、洗濯もの等)を支援している。早期退院を望んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・主治医と連携がとれ、職員もその対応・ケア方法を共有している。家族には状態変化がある度に連絡、特に遠隔地の家族には配慮している。変化が大きい時は救急外来を利用するなど注意を払っている。終末期の対応について契約時に説明を行うが、ホームでの可能・不可能も明確にしている。	利用開始時にホームが対応し得る最大のケアについて説明している。ホーム長が講師となり対応やケア方法について勉強会を積み重ね全職員で方針の統一を図っている。家族とは状態変化のたびに連絡を密に行い、特に遠隔地の家族には配慮して、主治医、ホームが連携をとり支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は24年度は未実施だが、異変事対応マニュアル、連絡体制は出来ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルが作成され毎年避難訓練を行っている。併設されているホームや高齢者下宿と合同に、町内の参加も得ながら夜間を想定した訓練も実施。避難経路・消火設備・スプリンクラーの確認もできている。布団やクッションを利用した避難方法も熟知している。	年2回消防署の指導の下、昼・夜を想定した避難訓練や避難経路、緊急連絡網、消火設備などの確認を併設のグループホーム・高齢者下宿と合同で地域協力隊や町内の方が参加して定期的に実施している。いざという時に慌てない様に日ごろから身近にある布団やクッション等を利用した避難方法も整え、マニュアルも作成している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人にあった声かけ対応に努めている。人格を尊重し、誇りを損ねないケアに努めている。	職員は利用者個々に応じた声かけや接遇に努め、尊厳や誇りを損ねないようさり気ないケアを心がけている。個人情報適正に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	季節や行事、月日などをヒントにしたり、個々人のわかる力に合わせて働きかけている。本人の特徴、表現の仕方を把握している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の顔あわせで心身の状況を把握し、各々にあった1日の過ごし方を一緒に決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみになるよう一緒に衣服を選び支援している。好みの髪型も理美容院にも伝えられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調にあわせて皮むき・山菜整理・調理等を希望をとって参加。各々が出来る範囲で手伝いをして頂き、あるいは見学にて楽しい食事になるよう心がけている。季節に配慮した食事、家族からの差し入れや畑で収穫した野菜が食卓にのぼり話題の一つにもなっている。	家庭菜園で収穫した野菜や近くの山で摘んだ山菜、近所の方からの差し入れ等、新鮮な旬の食材は食卓を豊かにしている。調理の下ごしらえや山菜の処理をする時は話が弾み笑顔も広がる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好品については把握しており、家族と協力して購入・提供する。職員と一緒に買物にも出向き品物を選ぶこともしてもらっている。食事摂取量と水分量チェックもその人によっては毎日行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じた支援を行っている。食後すぐに歯磨きしたくない人には、時間を見て声がけをしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、また様子・表情を察知してトイレを促している。快適に排泄できるように本人への声がけパットの渡し方も工夫している。	職員は利用者個々の排泄パターンを把握し、さり気ない声がけや誘導、介助を行い自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の食事、水分状況やパターンを把握し予防につなげている。便秘薬だけに頼らず、乳製品をおやつに出したりしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3～4日入浴を実施。温泉も週2回利用している。温泉入浴は(シャワー浴でも)楽しみにしている人が多い。入りたい時間帯やお湯の温度も希望にそっている。	週3回から4回の入浴を決めているが、利用者は週2回のホーム内温泉入浴を楽しみにしている。その他に必要なに応じてシャワー浴など昼夜を問わず臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主に身体的活動は午前中に、午後はゆったりと過ごし、穏やかに就寝できるようにしている。就寝前に座談しながら、あるいは悩みを聞きながらお茶を提供し安眠につなげている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	会議や毎日のミーティングで確認。さらに注意点については常に職員が把握できるようにしている。症状に変化があるか確認報告し合って記録もつけている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な家事や買物を支援のもと行っており、自分の役割として感じている様子。催事の飾り作りも一緒に行う。個々の趣味や特技も把握しており披露できる機会を作るようにしている。嗜好品も個々に把握している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天時は希望をとって散歩や外気浴を日常的にしている。ドライブにより近くの風景・四季の移り変わりを楽しんでいる。コンビニに徒歩でリサイクル品を届けたり、足湯・買物・地域交流に参加したりしている。	暖かい日は自然豊かなホーム周辺を散歩して、山菜を摘んだり足湯で一休みし、時には隣の老健施設に立ち寄る事もあり、日常的な外出の機会を多く確保している。また、近隣の町へ菜の花を見に行ったり、山にある風車を見学する等遠出のドライブを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族と話し合い所持金を把握している。希望により物品購入の支援をしている。また、常に小銭を用意し、お賽銭として大事にしている利用者の支援も行っており、ご家族と連携しタイミングを見て渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙などは自由としている。電話は家族の在宅している時間とし、ゆったりとして話されている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所の音・匂い・動きが直接感じられ食欲促進につなげている。建物には木材を多く使い、天窓など明るさにも配慮している。玄関・ホール・食卓には季節にあった植物も飾り、四季の装飾を利用者と一緒に作成、飾っている。	ホーム内の柱や梁、テーブルなどは地元産の杉や桧をふんだんに使い温もりある空間となっている。居間の大きな窓からは菜園や花壇、周囲の景色が広く見渡せ、季節の移ろいを感じる事が出来る。天窓からは程よく陽が入り明るく清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士の席、座る向きにも配慮した居場所作り心がけている。読書が楽しめるような本棚の配置や訓練室の活用、保護棒で自分なりの軽運動など、安全な見守りのもと自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、使い慣れた物品・身の回り品があり心地よい生活を行っている。	家族や本人と相談して使い慣れた家具や調度品を持ち込んだり、家族の写真をたくさん飾る等、居心地よく暮らせる様に支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全バリアフリー、階段の段差も低く、トイレ等も使いやすいよう工夫されている。車椅子の自走がしやすいように家族と相談して戸口をはずし、カーテンでプライバシーへの配慮もしている。		